

今時の高校は ～校長の立場から考える～

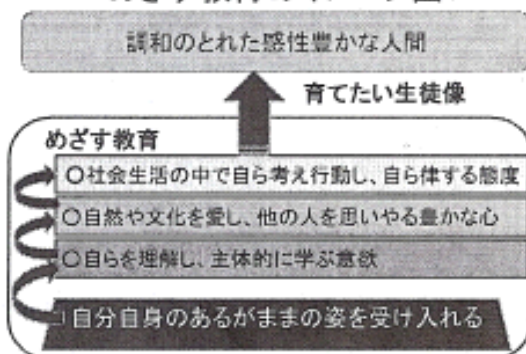
1. 自己紹介

昭和28年9月8日 58歳
昭和48年4月 法政大学経営学部経営学科入学
教職は夜間部で取得
昭和54年4月1日 25歳 教員に採用
松江商業高校・隠岐高校・情報科学高校・島根県教育センター
松江養護学校教頭・教育庁高校教育課調整監・宍道高校校長
平成10年から4年間 島根県バスケットボール協会強化副部長
島根県高体連バスケットボール強化部長
(少年男子 監督) (JOTK杯解説)

2. 宍道高校を開設するにあたり考えたこと

(1) どんな学校を創りたいか

めざす教育のイメージ図



- 校訓
- 年度具体目標
- 平成22年度
- 平成23年度
- 平成24年度

(2) 教職員組織をどうするか

①定時制課程（三部制）・通信制課程と全く違う組織が同居している

②教職員の多さ

③教員に対するメンタル・ヘルスの重要性

〈学校現場の大きな3つの変化〉

- ①教育実践環境変化・・・
- ②期待される教育内容・・・
- ③勤務条件の変化・・・

援助レベルは次の3段階である。

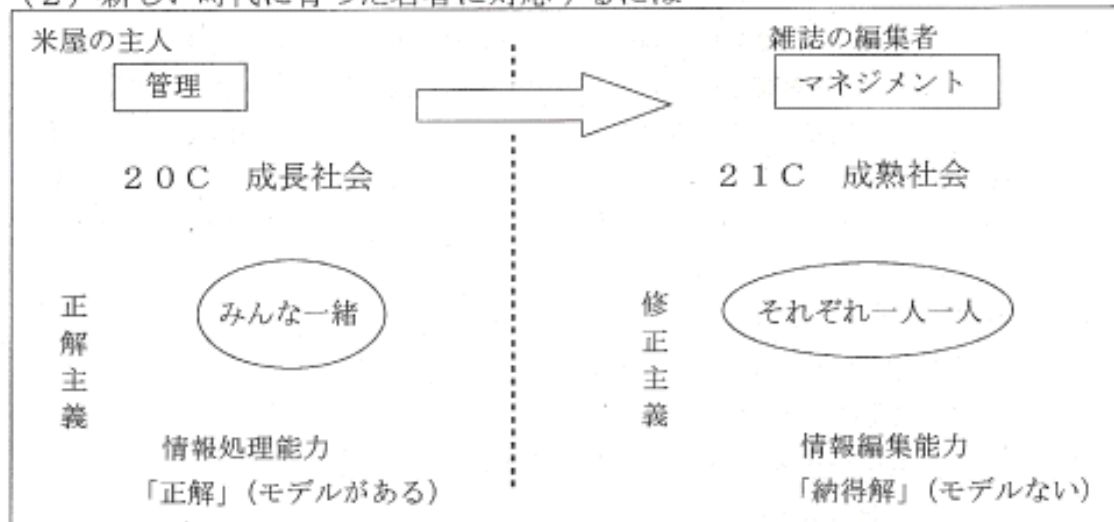
- ①一次的援助・・・
- ②二次的援助・・・
- ③三次的援助・・・

3. 今時の高校・高校生は・・・

(1) 企業が望む付けて欲しい力

- ①
- ②
- ③

(2) 新しい時代に育った若者に対応するには



4. 私が巡り会えた素晴らしい上司

福島律子・・・「仕事は100点でなくてもはやく」

「今日やれることは今日やれ。明日になると言い訳になる」

広江千年・・・「去年と同じことは退歩である」

「振り返れば未来」過去を反省すれば未来が拓ける。

「ハインリッヒの法則」

「問題意識のないものはだめ」

三代 正・・・「教師が何々をさせる。のではなく生徒何々をする」

藤原義光・・・「お前に任したから、お前の思うとおりに学校を創れ。おれは何も言わない。」

「情報を発信するために絶えずアンテナを高く」